

「ひだ国府紅しだれ」実生を台木に利用することで モモ「はつひめ」の樹勢を抑制できる

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－モモ－品種

2 担当者名

志村浩雄、秋山祐輝

3 要旨

県育成モモ品種「はつひめ」は、収穫後に樹勢が強くなり、樹が大型化しやすいが、岐阜県で育成した「ひだ国府紅しだれ」の実生を台木として利用することで樹勢が抑えられ、慣行の「おはつもも」実生と比較した場合、幹の太りや樹冠の拡大が7割程度に抑えられる（図1）。なお、樹冠占有面積から算出した10a換算収量や果実の大きさ、着色、糖度は、慣行の「おはつもも」と比較した場合、同等～やや優れる（図2）。

- 「ひだ国府紅しだれ」は、岐阜県ら育成のモモ台木用品種(2008年3月登録番号16479)であり、岐阜県高山市国府町在来の観賞用ハナモモの自然交雑実生から選抜された。
- 樹勢や樹冠の拡大は条件により異なることから、地力等を考慮し適した台木を選択する。

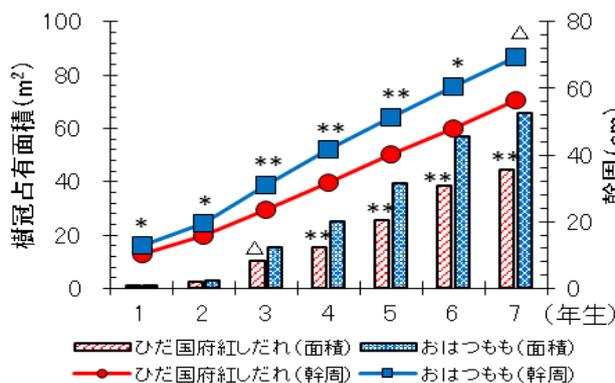


図1 樹冠の拡大と幹の肥大

注)分散分析により、**、*、△はそれぞれ危険率1%、5%、10%で有意差有り。

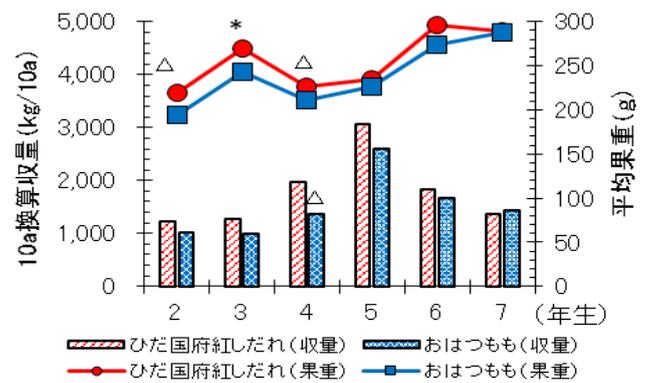


図2 収量と平均果重の推移

注)10a換算収量は、樹冠占有面積(7×6.5m:22本/10a)に基づき算出。分散分析により、**、*、△はそれぞれ危険率1%、5%、10%で有意差有り。

4 成果を得た課題名

- 研究期間 令和3～7年度
- 研究課題名 県オリジナル果樹品種の安定生産・流通技術の確立(福島県産農産物競争力強化事業(研究)、オリジナル品種開発導入事業)

5 主な参考文献・資料

- 令和4年度参考となる成果「台木の違いによる県オリジナル品種「はつひめ」(5年生)の生育」
- 神尾ら モモ品種「ひだ国府紅しだれ」の台木特性に関する研究 岐阜県中山間農業研究所 研究報告第12号(2016)